

平成30年度：医療系事業所における研修に関する実態調査結果（2）

●趣旨／目的

長浜米原地域医療支援センターでは、在宅医療・介護連携推進事業として医療・介護職を対象に医療・介護関連の研修会、医療・介護関係者対象に多職種連携研修会を開催している。しかし、湖北圏域の各団体においても其々同様に研修会が開催され、開催日や研修内容が重複することが暫しある。このことは、受講者や研修企画者側にとってもジレンマとなり、参加者増にも繋がらない現状がある。そこで、湖北圏域で開催されている研修会の実態を把握し、効率的・効果的な研修会開催を目的に下記のアンケート調査を行った。

●調査対象

訪問看護ステーション、4病院連携室（セフィロト病院・市立長浜病院・長浜赤十字病院・長浜市立湖北病院）3師会事務局（湖北医師会・湖北歯科医師会・湖北薬剤師会）

●調査期間 平成31年3月29日～4月19日

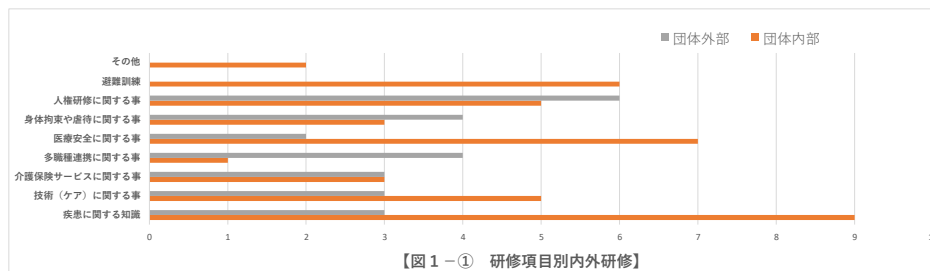
●調査方法 郵送配布／アンケート回答／郵送回収

●回収状況 回収：3師会（3/3）病院連携室（4/4）訪問看護ステーション（13/18） 回収率80%

1、研修項目別内外研修と必須項目の一覧

表1-① 訪問看護ステーション（回収率72%）

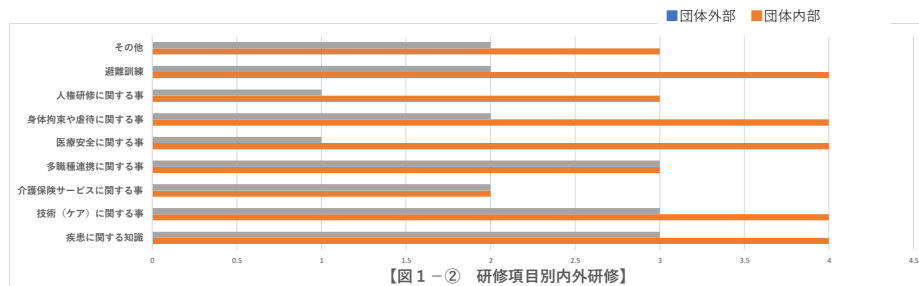
	団体内部	団体外部	合計	必須
疾患に関する知識	9	3	12	0
技術（ケア）に関する事	5	3	8	0
介護保険サービスに関する事	3	3	6	0
多職種連携に関する事	1	4	5	1
医療安全に関する事	7	2	9	4
身体拘束や虐待に関する事	3	4	7	3
人権研修に関する事	5	6	11	8
避難訓練	6	0	6	2
その他	2	0	2	1
合計	41	25	66	19



【その他】 感染対策・リハビリ・口腔ケア

表1-② 4病院連携室（回収率100%）

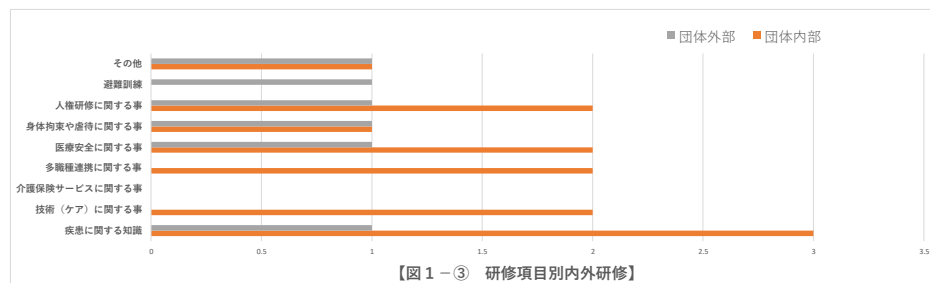
	団体内部	団体外部	合計	必須
疾患に関する知識	4	3	7	2
技術（ケア）に関する事	4	3	7	2
介護保険サービスに関する事	2	2	4	0
多職種連携に関する事	3	3	6	1
医療安全に関する事	4	1	5	2
身体拘束や虐待に関する事	4	2	6	1
人権研修に関する事	3	1	4	3
避難訓練	4	2	6	4
その他	3	2	5	3
合計	31	19	50	18



【その他】 診療報酬・接遇・交通安全・びわ湖あさがおネット・感染管理
人生の最終診療室における救急医療

表1-③ 3師会事務局（回収率100%）

	団体内部	団体外部	合計	必須
疾患に関する知識	3	1	4	1
技術（ケア）に関する事	2	0	2	1
介護保険サービスに関する事	0	0	0	0
多職種連携に関する事	2	0	2	0
医療安全に関する事	2	1	3	1
身体拘束や虐待に関する事	1	1	2	0
人権研修に関する事	2	1	3	2
避難訓練	0	1	1	1
その他	1	1	2	0
合計	13	6	19	6

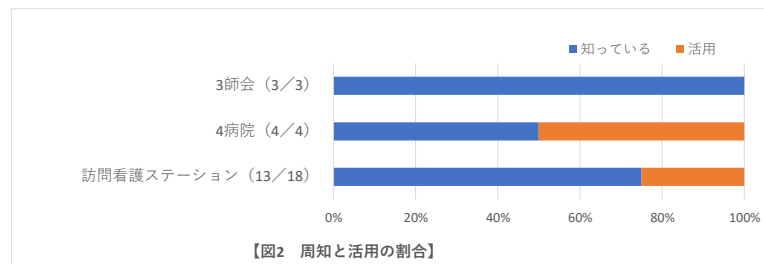


【その他】 学術講演会・認知症対応向上研修

2、ホームページに掲載する研修カレンダーの周知と活用の一覧

表2 ホームページに掲載する研修カレンダーの活用度

	知っている	活用	未活用	知らない	未回答
訪問看護ステーション (13/18)	6	2	4	6	1
4病院 (4/4)	3	3	1	0	0
3師会 (3/3)	3	0	3	0	0
合計	12	5	8	6	1
%	60%	25%	40%	30%	5%



3、31年度に企画する各団体別研修テーマ

訪問看護ステーション (13/18)	精神科基本療養費算定要件、訪問看護eラーニング、タクティールケア、 認知症 、訪問看護師実力向上研修、人権研修 (2)、医療安全、呼吸リハ、精神看護 (在宅)、事例検討、月1回必要研修項目や訪問中の困り事、記録などその時々トピックス、褥瘡評価、フットケア、呼吸ケア、小児や重症心身障害者の在宅生活
4病院 (4/4)	ヘルスケア、疾患、ケア、多職種連携、ACP、 認知症疾患センター からかかりつけ医向け、包括向け、地域住民向け研修、医療安全・感染委員会活動、看護局内でレベル1～4段階の年間計画、小児リハビリテーション年12回シリーズ、漢方 (便秘)、がん、 stomal 褥瘡 or フットケア
3師会 (3/3)	めまいふらつき患者に出会ったら、アブレーション、眼科の話題、過活動膀胱、インフルエンザ、肝疾患、脳卒中のリハ、副鼻腔炎・後鼻漏・咳、人権研修、医療事故から学ぶ、医療安全管理、訪問歯科診療の会員向け研修、摂食嚥下リハビリ、口腔ケアに関する会員向け研修、薬業連携研修会、多職種連携研修会、 認知症 に関する研修会、医療材料に関する研修会

4、当支援センターに求める研修テーマ

訪問看護ステーション (13/18)	多職種研修会 (3)、ファシリテーター、小児やしょうがい者の制度、在宅医療
4病院 (4/4)	共催でACP (2)、多職種の集まり、病院スタッフが在宅でどのような関りをされているのか実感できるもの、嚥下が出来なくなったら
3師会 (3/3)	認知症患者における医療と介護の連携、歯科衛生士が研修会や講演会で活躍中なので何かできることがあれば、医師との連携が深まる研修会、地域の方と一緒に課題を見つけ解決に繋がる研修会

結果・考察

表1①～③、図1①～③から

医療系部門の特性もあり、3師会と訪問看護ステーションは疾患など専門的知識に特化。医療安全や人権など必須項目についても研修されているが、4病院はすべての項目において内外研修を問わず研修の機会がある。ただ、訪問看護については、疾患や必須項目以外では半数程度の数値から、ステーションにおいて格差があるのではないかと考える。また、どの団体においても内部研修だけで完結せず外部研修に委ねている事が分かり、其々の団体がコラボして企画することで研修会が充実できるのではないかと。

4病院と3師会では研修カレンダーの周知はできているが活用は3病院だけだった。訪問看護においても周知は13件中6件でその中で活用は2件しかなく、全体での活用度は25%だった。介護系事業所と同様、まだまだ周知不足が懸念された。研修会の課題は明確になっても対策が追いついていない現状があり、更なる啓発が求められる。

3の31年度に企画する研修テーマから

どの団体においても認知症のテーマで研修を企画されている事が分かった。他、介護系スタッフにも通ずるテーマであれば、自事業所に留まらず、参加対象を外部に拡大してもらえれば疾患知識の底上げにならないかと。

4の当支援センターに求める研修テーマから

多職種でACPや在宅終末期、病院スタッフが地域をイメージし易い内容などのテーマが求められた。

まとめ → 介護系研修実態調査と同様